

魚蠟山のトケビ1

ある人が、裏の魚蠟山に柴刈りに行ったんだって。そしたら、途中ですごい雨が降って来たから、大きな岩の下で雨がやむのをまっていた。雨宿りするうちに、すっかり眠くなって、うつらうつらしていると、いつの間にかトケビどもが集まって、舞いをまいながら遊んでいた。

その人は、恐ろしくなって、われ知らず、ガリリとそばにあったケークムという木の実を喘んじやった。その音があんまり大きかったから、トケビどもは家（岩）が崩れるかと思って、ビックリして、金や銀や、いろんな宝をおいて逃げてしまったんだ。

その人は、それを全部チゲ（背負子）で背負って、家にもって帰り、大金持ちになったって。（語り手：南舜朝・1910 生まれ）